

# えひめの歴史文化モノ語り

県歴博収蔵資料から ⑭

最近、地方鉄道の在り方が注目されているが、敷設された歴史を踏まえて議論することも大切だろう。今回紹介する資料は、予土線の前身である宇和島鉄道の写真である。

1枚目は宇和島駅舎である。宇和島鉄道の発端は明治20年代にさかのぼるが、日露戦争などの紆余(うよ)曲折を経て、1914(大正3)年に宇和島―近永間が開通した。当時の宇和島駅は現在地と異なり、和霊神社の隣(現在の宇和島市

と3両の客車が見える。客車に乗客は見えず、無蓋車には自転車積まれていた。近永へ着いて乗客が降りた後の写真だろうか。2号機関車の手前には逆を向いた機関車も見える。これらの写真を残したのは立花秀頭(ひであき)氏は1874(明治7)年に元宇和島藩士長尾信敬(のぶたか)後の西宇和郡長・東宇和郡長)の次男として生まれた。東京工業学校(現東京工業大学)を卒業後、陸軍省築城部を経て、1912(同45)年に宇和島鉄道に技師として入社した。

宇和島鉄道はまだ国鉄が愛媛県入りしてない時期に宇和島―近永間を開通させた。1923(大正12)年には近永―吉野(現吉野生)間も開通した。軽便鉄道とはいえ、宇和島鉄道が地域に与えた影響は大きかった。

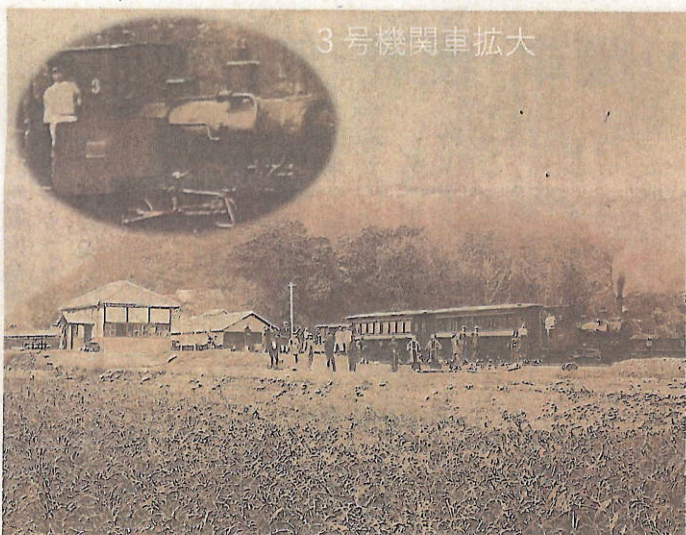
本資料は7月22日～9月18日まで県美術館で開催する「海洋堂展」関連展示としてパネルで紹介予定。

(専門学委員・平井誠)

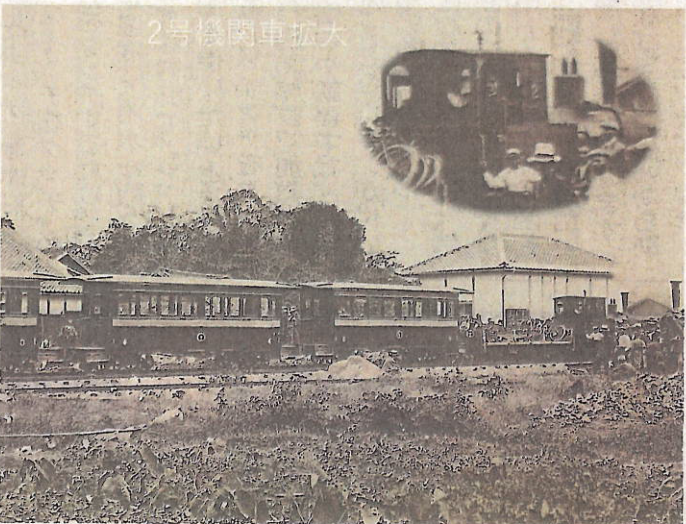
〈随時掲載します〉

## 「軽便」予土線の前身に

### 宇和島鉄道の写真



3号機関車拡大



2号機関車拡大

⑭宇和島駅舎と3号機関車⑮近永駅舎と2号機関車 (いずれも県歴史文化博物館蔵)